

パワフルAOMORI！創造塾 第3回公開講座

パネルディスカッション「未来のAOMORIを地域から」

平成27年1月10日(土) 青森県総合社会教育センター 第1多目的研修室

パワフルAOMORI！創造塾は、その名前のおとおり、元気な青森を創造する人材を育成する塾です。2年間をかけて、地域づくりの理論と実践を学びます。公開講座は、地域づくりに取り組む新たな活動者の発掘と育成、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、活動の活性化を図ることを目的に開催しています。



第3回目となる公開講座が、平成27年1月10日に青森県総合社会教育センターで開催されました。この日は、青森市で30年ぶりの積雪になるほどの大雪の中にもかかわらず、地域づくりに関心のある50名近くの県民に集まっていただきました。しかも、半分以上が、高校生と大学生でした。今回の公開講座では、若者の地域活動のスペシャリストである宇都宮大学地域連携教育研究センターの廣瀬隆人教授をお招きして、前2回の公開講座でパネリストをしていただいた「S o o p !」代表の清水圭子氏、「Misawa Art Project」代表の田村宣喜氏、「輪茶プロジェクト」代表の石岡大輔氏とともに、「新たな地域づくりを行うときに大切なこと」をテーマとして、パネルディスカッションをしていただきました。ここでは、廣瀬先生からまちづくりに関してお話いただいたポイントをまとめています。

新たなまちづくり“まち変え”に必要な4つのポイント

まちづくりは、まちを暮らしやすく変える“まち変え”です。

- **地域の人たちが、出会って、語り合っ、触れ合う場を作ること**
人と人とのつながりをつくる出会いの場があれば、まちは変えられます。
- **地域で楽しく暮らすために、地域の資源を理解すること**
まちにあるものを探していくということです。「食」と「文化」を探すと人がつながります。
- **地域で安心して、安全に暮らせるようにすること**
安全の問題というのは、まちづくりと切り離すことができません。
- **地域の課題を発見して、解決すること**
地域と密着した地元の課題を解決していくこととつながっていくことが必要です。



田村氏と交流する高校生のみなさん

参加者に大好評の「交流タイム」

交流タイムは、新たな仲間づくりとネットワークの形成・強化を目的に、3回実施された公開講座の全てにおいて行われたものです。参加者からは、「交流できる時間がもっと欲しかった」、「たくさんの人と話す機会があって楽しかった」、「年代を超えて様々な価値観の方とつながることができ、参考になった」など、多くの好評をいただきました。交流タイムには、自分の学びを再確認する、人と感動を共有する、人の価値観に気づくなど、多くの効果が期待できます。

パネルディスカッションから確認されたまちづくりに必要な5つのポイント

- 「アート」で人はつながることができる。芸術は、一人一人の個性と心を大事にする。
- 「人に必要とされること」、「人の役に立つこと」、「人に愛されること」、「人に誉められること」という肯定感が、まちづくりの大きな機動力になり、生きがいにつながっていく。
- まちづくりは、4人以下で始めるのが鉄則である。人数が多くなると意見がまとまらず、瓦解する可能性が高くなる。
- まちづくりを継続させていくためのポイントは、次の3点である。
 - ・ イベントで利潤を得て、人件費や活動費を補填できるように運営することを心がける。
イベントをやり続けると、自分達の人件費が加算されないコストになってきて、疲弊するだけになる。疲弊しないためには、人の繋がりを創っていき、そこからまた新しい出会い、新しい繋がりで新しい人間関係を創っていく、そして、新しい事業に発展させていくことが大切である。
 - ・ 新しいメンバーを増やす努力を欠かさず、新しい考えを取り入れていく。
新しい考えを取り入れることが伝統を守ることにつながり、マンネリ化を防ぐことにつながる。
 - ・ イベントは、時機を見て休止期間をつくった方がよい。
まちづくりに関しては、継続は必ずしも力ではない。3年たったら見直して、新しいことを加えて、新しいバージョンに変化していくというようなまちづくりに変わっていくことが大切である。
- まちづくりはイベントをすることではなくて、“人の繋がりを作る行為”である。
お互い無理を言い合えるような人間関係が創られるという方向に持っていくことが大切である。まちづくりに関して、自分のまちづくり感みたいなのをもって、自分の言葉でそれを語れることがとても重要である。人の話を聞き、自分の意見を言い、そういうことを通じて、まちづくりの考え方が鍛えられていき、行動に結びつく。行動が変容することで、私たちは学習していることになる。

<講師・パネリスト紹介>



廣瀬 隆人 氏 (宇都宮大学地域連携教育センター 教授)

北海道で高校教員を務めた後、少年自然の家、北海道教育庁勤務を経て、1995年から現在の国立教育政策所社会教育実践センター勤務、2000年から宇都宮大学で教鞭をとる。専門は社会教育学。青森県の社会教育にも造詣が深く、本県の学校支援ボランティア活動の推進に力を注いでいただいた。



田村 宣喜 氏 (Misawa Art Project 代表)

三沢市役所広報広聴課職員。アートでまちを盛り上げようと市民団体を設立。「子どもカメラマン」、「子ども屋台村」、「ミサワ アートレイン」、「うわさカフェ」など、子ども達を対象にした様々なイベントを企画し、実践している。『人と人とのつながりを大事に』をモットーに活動している。



石岡 大輔 氏 (輪茶プロジェクト 代表)

生命保険会社のライフプランナー。秋田には楽しいことがたくさんあるはずだという考えから、妻と二人でフリーペーパーを発行する。部数は4,500部に拡大。そのタウン誌をきっかけに、「輪茶フェス」、「映画上映会」、「ぐりとぐらの絵本の世界」など、多様なイベントを企画し、実践している。『参加することから始めよう』をモットーに活動している。



清水 圭子 氏 (Soop! 代表)

ツアーを企画する仕事に従事。八戸市白銀地区を中心とした自分達の遊び場探しから始まり、そこで見つけた公園の清掃活動をきっかけに地域住民とのつながりを作る。地域住民とともに「キャンドルナイト」、「ミソスープの会」、「ひまわりリレー」などを企画し、実践している。『楽しみながら活動しよう』をモットーに活動している。